東京音楽大学リポジトリ
Tokyo College of Music Repository

ドイツ語の「間投詞」について：
―ドイツ語の授業に際して、ひとつの覚書―

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2020-04-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 木戸, 芳子, Kido, Yoshiko
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1323

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

ドイツ語の「間投詞」について
―ドイツ語の授業に際して、ひとつの覚書―

木戸芳子

はじめに ― 本稿の目的

最初に、何故「間投詞」(Interjektion) を取り上げるのか、その理由について記してみたい。

わが国で出版されているドイツ語教材を見ると、入門、初・中・上級者向けのいずれをとっても、間投詞に関するまとまった説明は非常に少ない。教材の中ではそれほど重要視されてはいないのが現状である。これに対し、筆者は、教材の中で、もうすこし間投詞を取り上げ、ドイツ語の授業で、学生にもっと積極的に間投詞を教えるべきであると日頃から考えてきた。筆者は、こうした間投詞をめぐる現状と課題について次のように考えている。

1．まずは、テキストを理解する上で、間投詞は欠かせないものであるからである。ドイツ語の学習で扱う、会話文、物語、詩、説明文、論説文など、様々なテキストの中で、間投詞が比較的多く出現するのは、簡単な会話文、詩、物語の中であろう。こうしたテキストは入門ないし初歩段階で使用される場合が少なくない。間投詞の多くは文頭に置かれて、文意を先取りする機能があり、間投詞を理解することは、テキストを正確に把握するために欠かせないものである。

2．間投詞は、テキスト理解に重要であるにもかかわらず、前述のように，日本で出版された総合教材をみても、まとまってこれを取り扱い、説明している事例をあまり見かけることがない[1]。なぜならば、間投詞を特段理解していなくても、後続の文章の意味が把握できれば、それでよしとする向きがあるように思われる。実際、教材だけでなく、たとえば、一般に頒布されている映画の字幕をみても、字数の制限があること、映像をみることでかなり理解できるという理由もあり、多くの場合、間投詞は翻訳されにくい。しかし、筆者に言わせれば、「間投詞されど間投詞」であり、間投詞を抜きにしては、ドイツ語の正確な意味把握は難しいとさえ言うこともできよう。

3．間投詞は本来、音声を伴って初めて正確に理解できるという理由もあり、授業では、CD、DVD などを使用しながら丁寧にその説明をしていくことが要求される。しかし、現行のドイツ語の授業時間を考えると、大半の日本人教員にとってそうした時間を確保する余裕がない。重要であるということはわかっていても、間投詞にあてる説明時間をとることができない。それならば限られた時間のなかで、間投詞を最低限どのくらい授業に盛り込んでいくことが可能なのか、そのチェックリストを作ってみたいと考えたことも本稿執筆の主な理由と

1　間投詞についてわかりやすく説明されている数少ない事例として、清野智明著『中級ドイツ語のしくみ』白水社、2008年, pp.274-275. がある。

なっている。

4．以上のように、日本国内の授業では軽視されがちなドイツ語の間投詞だが、ドイツ本国で作成されている教材、とりわけ「外国人のためのドイツ語」(Deutsch als Fremdsprache) を見ると、間投詞に関して、明快でシンプルな説明が施されている。例文と写真による表情が掲載されているなど、学習者にとって、入門、初・中・上級を問わず、平易な解説がなされている。その一端を紹介し、間投詞のドイツ語教材の中での扱い方について検討したいと考えたのも本稿執筆の理由である。本稿では、こうした海外教材の中で、日本国内の大学でも比較的多く使用されてきた、Hueber 社の「Schritte　international」をひとつの事例として見ていきたい。

5．間投詞の日独比較をすると、言語の響きや音声は似ているが、意味がまったく異なる場合がある。例えば、(驚き、不審を表して)「おやまあ、へえー」という意味の間投詞「oha」は、一時、日本国内の若者の間で交わされた朝の挨拶「おは」に発音が似ている。「おはスタ（おはようスタジオ)」というテレビ東京系列６局と近畿の独立放送局３局で放送されている日本の平日早朝の子供向けバラエティ番組の略称にもある。こうした事例を紹介することは，学生がドイツ語に少しでも興味をもってもらうためには必要なことではないかと思われる。母語と学習言語の類似をきっかけとして、外国語としてのドイツ語の学習に親近感がわくことにもつながるのではないかともいうことができよう。とは言っても、流行語や俗語を教材で積極的に取り扱おうとするものではない。これまで日本のドイツ語教材で扱われにくいという理由でさけられてきた間投詞については，頻度，使用範囲の規模により初歩の段階で簡単にまとめた説明が必要だと考えられる。

以下、本稿では、ドイツ語の授業で間投詞を取り扱うに際して参考となりそうな事柄について、筆者なりの覚書を作成してみた。

取り上げる順序としては、次のようになる。

Ⅰ　間投詞の文法体系上の位置づけ

Ⅱ　間投詞とは何か

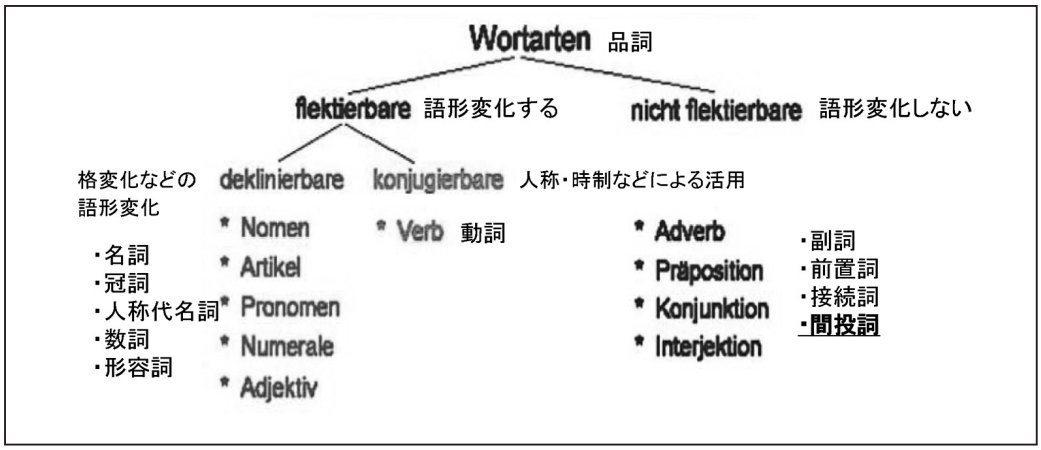
Ⅲ　よく使用される間投詞のチェックリスト

Ⅳ　教材の中に出てくる間投詞に関する出題例

Ⅰ　間投詞の文法体系上の位置づけ

品詞は、「格変化などの語形変化をするもの」と「語形変化しないもの」に区分される。間投詞は、副詞、前置詞、接続詞とともに後者に属する（図１を参照)。

図１　品詞の分類と間投詞



（出典）WORTARTEN〈http://www.udoklinger.de/Deutsch/Grammatik/Wortarten.htm〉

Ⅱ　間投詞とは何か

本章では、いくつかの教材の中から「間投詞とは何か？」について書かれている箇所を抜粋してみよう。

1　„Ach! Aha! Hurra!“ ― Die Interjektionen im Deutschen von Veronika Amann から[2]

本資料は、ヴェロニカ・アマン（Veronika Amann）が「外国語としてのドイツ語」のサイトの中に所収されているもので、「ヨーロッパ言語参照枠」（CEFR）のレベルでいうと B1 以上が対象となるとしている[3]。

まず「間投詞とは何であるか」について、次のように説明している。

> 間投詞は、それを使って大きなことを表現可能な単語である。何故ならば、文全体よりも多くのことを言い表す一語であるからである。間投詞（Interjektion, Empfindungswort 感動詞、Ausrufewort 感嘆詞とも言われる）の使命は、要求を強く端的に言葉を使って、感情を表現するものである。例えば、「静かにしてもらえるかな？」（Kannst du bitte leise sein?）という要求を考えてみてほしい。„Pssst!“という短い一言の方がはるかに効果的であることも、しばしばである。
>
> そのような言葉を、ドイツ語学習者は母語でも必ず知っているものである。

続いて、役立つ間投詞の事例として次のような語が挙げられている。

2　„Ach! Aha! Hurra!“ – Die Interjektionen im Deutschen von Veronika Amann〈https://www.deutsch-als-fremdsprache-lernen.de/deutsche-grammatik-interjektionen-EMPFINDUNGSWORT-aha-igitt-aua/?id=28385〉

3　ibid.以下の引用も同じ。

表１　ドイツ語の間投詞とその意味

間投詞	意味
Aua! あーっ！	痛む！
Pst!　しーっ！	静かに！
Igitt! うあ　やだやだ！	気味が悪い！
Ohje! なんてこった！	なんて腹立たしい！
Hurra! うあい！	嬉しい！
Uff!　ふう！	なんてきつい！
Husch, husch! さあ　さあ！	そこをどけ！

（出典）注２の資料より訳出

なお、間投詞の特徴としては、次のように言われている。

間投詞は厳密な意味で、イントネーションつまりアクセントと抑揚に強く関わっている。例えば、“hey“「おい・やあ」は „Hey, wie geht's?“「やあ、元気かい？」と理解されるか、„Hey, lass das!“「おい、ほっとけ・やめろ」というように捉えられる可能性がある。ときには、“Hey“は愛称のような呼びかけや慰めの言葉としても使われる。

２．Giannis Farmakis, Interjektionen: Welche Rolle haben sie in der gesprochenen Sprache?　から

次に、ギアニス・ファルマキス（Giannis Farmakis）がまとめた「間投詞は、話し言葉の中でどのような役割を有しているか」（Interjektionen: Welche Rolle haben sie in der gesprochenen Sprache?）を紹介してみたい[4]。

まず例として、間投詞が使われた次のような文章が挙げられている[5]。

„Peter hatte einen Unfall.“「ペーターが事故った」。
„Oh je!“「あれ　まあ大変！」
„Na ja, eigentlich ist es nicht so schlimm!“「まあそうだが、実際はそれほどひどくはないんだ」。

間投詞の役割としては、次のように説明されている。

ドイツ語では、話し言葉に関して、文脈やイントネーションに応じて、発話の意味が変わり

4　Giannis Farmakis, *Interjektionen: Welche Rolle haben sie in der gesprochenen Sprache?*, 2011.を参照。以下本節の引用は、すべて注２の資料を参照。
5　以下本節の引用は、すべて注４の資料を参照。

うるような、ちょっとした言葉が多く存在する。こうした言葉が間投詞と呼ばれる。このような間投詞は不変化で、構文上の機能は大きくはない。間投詞は話をより生き生きとしたものにする。しかし書き言葉では、間投詞を使わないように言われている。したがって外国語教育においては残念ながら間投詞にあまり注目されていない。しかし、間投詞をきちんと解釈することを学んだ者にとっては、多くの状況を理解することがもっと容易になるといえよう。

3　„Grammatik, Rechtschreibung, Textsorten sowie Literatur“から

次に、ドイツ文法のサイト「文法、正書法、テキストの種類および文献」(Grammatik, Rechtschreibung, Textsorten sowie Literatur）から間投詞がどのように取り上げられているのか抜粋してみた[6]。

間投詞すなわち感動詞（Empfindungswort）あるいは感嘆詞（Ausrufewort）は、感覚や感情を表現したり、感嘆を示すために用いられる。ときにはきわめて擬音・擬声語的でもあり、その意味では擬音・擬声語と言える。多くの場合、コンマか感嘆符で文を区切る。

例として、次のような文例が挙げられる。

„Au, das tut mir weh!“	「あっ、痛い！」
„Pfui, das ist so ekelig.	「げ、とても不快だ！」
„Ah, das hat er wirklich gut gemacht!“	「ああ、それって彼は実にうまくやった！」
„Hm, das muss ich mir noch einmal überlegen.“	「うーん、それはもう一度よく考えなければならない！」

生徒たちの間で非常によく使われる„Oida！“ はきたない言葉（Unwort）である間投詞である。

このサイトでは、間投詞の種類を一次的間投詞（primäre Interjektionen）と二次的間投詞（sekundäre Interjektionen）に区分して、次のように説明している。

一次的間投詞は、人間や動物の声、あるいは物音の模倣（擬音語）で、他のどの品詞からも由来することはないものである：aua, au, uff, ih, haha など。

二次的間投詞は、Mensch, Scheiße, Mist などで、これらは他の言葉に関連するか、こうした言葉に由来する言葉である。こうした間投詞は、実際に感嘆詞として理解される。

例えば、Scheiße! は困難や不運な出来事あるいは悪態として理解されている。

6　〈https://www.deutsche-grammatik.net/〉を参照。以下本節の引用は、すべてこの資料を参照。

またこのサイトでは、間投詞のタイプを次のような表にして掲載している。

表２　間投詞のタイプ

タイプ	事例	特徴
要求・命令（アピール間投詞）	pst（しーっ）, prosit（乾杯）	行為を促す。
対話で使う言葉	aber（でも）, gut（いいよ）, genau（そのとおり）	対話の中で使用。躊躇の印。コミュニケーションの機能を果たす。
挨拶の言葉	hallo（やー・おーい）, huhu（おおい・もうし）, tschüss（じゃーね）, hi（やあ）	出会いまたは別れの挨拶。
派生語	seufz（ふー）, ächz（うーっ）, grins（にやっ）gähn（はあー）	ある人物の行為を示す言葉。しばしばコミックで使用。動詞の場合は不定形の語尾 -n または-en を省略。
呼びかけ・追い払いの音声（アピール間投詞）	put-put（トト・ココ）, miez-miez（ニャーニャ）, hü（進め、止まれ）, husch（さっ）	特に動物が動くように促す。
模倣（擬音・擬声語）	Boing（ボーン）, puff（シュッ）, peng（パン）, wau（ワン）, mäh（メエー）	他の音を模倣。
文意を先取りする間投詞	ach（ああ）、aha（ははあ）、igitt （やだやだ、気味悪い）、huch（うわっ）、hurra（万歳）	話し手の感情を示す。
躊躇・引き延ばしの音声	äh （まあ）、ähm（えー）、hm（ふむ、さあ）	対話形態。 話の間をうめるために、躊躇・引き延ばしを意味する。
上記以外の品詞の言葉	Donnerwetter（驚いた）、Mensch（こら、へぇっ）、Mist（いまいましい）	元の意味から転用した感嘆詞。

（出典）注６を参照

なお、同様のサイトである「Grammatik & Übungen für Englisch, Spanisch und Deutsch」では、間投詞について次のように説明されている[7]。

間投詞（Interjektionen）は、Ausrufewörter、Ausdruckswörter、Empfindungswörter とも言う。

間投詞と間投詞は感情を再現する感嘆表現や言葉である。それは、感情を表現したり、対話の相手や聞き手の注意を引くために、しばしば対話の中で使われる。構文上の機能ではなく、不変化詞に属し、それ故、語形変化はない。通常、文の前に置かれ、コンマで区切られる。

7　Grammatik & Übungen für Englisch, Spanisch und Deutsch〈https://www.cafe-lingua.de/deutsche-grammatik/interjektionen.php〉

間投詞の文章の中での使用例を挙げると次のようになる。

„Hey! Was soll das?“ （えーい、どういうことだ？）

„Oh, das ist aber nett!“ 「あー、ほんとうにご親切なこと！」

„Hä, wieso das denn?“ 「えっ、いったいなぜ？」

„Igitt, schon wieder Spinat!“ 「うわ、またホウレン草か！」

„Ach ja, was ich noch sagen wollte ...“ 「あっそう、まだ言うことがある…」

„Mist, schon wieder nicht gewonnen!“ 「なんってこった、またしても勝てなかった！」

„Ach, wenn du wüsstest!“ 「ああ、君が知っていたらな！」

„Oje, das wird hart!“ 「あれあれ、厳しくなるな！」

Ⅲ　よく使用される間投詞のチェックリスト

よく使用される間投詞としては次のようなものがある[8]。

表３　よく使用される間投詞一覧

- Äh- Ähm「あー！」「えー！」（置かれた間）
- Ah!「あー！」（肯定的な驚き）
- Aha!「ははあ，なるほど！」「ほうら！」／「それはつまりはそういうことなの。」
- Ach!「ふん！」「ふーうん！」／「それについてはほっといてくれ。」（無頓着あるいは関心）
- Ach ja?「あーそうなの？」／「いや、それは面白いな。」
- Ach so?「あーそうだったの？」／「それはこれまで知らなかった。」
- Aua!「あっ！」／「痛い」―「ほんとにひどい！」
- Ach du meine Güte!「あらまあ、おやおや！（これはなんということだ！）」（過大な要求、憂慮）
- Ach herrje!「へええ！」／「ああこれは大変だ。」
- Ach du Schreck!「ああびっくりした!」／「ああこれは大変だ。」
- Also bitte!「やっぱり、ほらね！」／「全く恥さらしなへまをしてくれたな。」
- Ätsch：「やあい」（いい気味だ）
- Bäh!「やあーい！」／大声を上げて嫌悪や他人の不幸を喜ぶ気持ちを示す。
- Bei Gott!「神にかけて！絶対に間違いなく！」／「君のいうとおり。」（確認）
- Brr,kalt!「うぁ（ぶるっ）、寒い！」／寒くてガタガタする、不快な天気。
- Igitt! (Igitt igitt igitt!)「うあーやだやだ！」／「むかむかする。」
- Du liebe Güte.Das ist sehr ärgerlich.「いやもう．これはじつに腹立たしい。」(Das darf doch nicht wahr sein!)「まさかそのようなことがあってよい（ありうる）はずがない！」

8　„Mmmh...! Mittelpunkt!“〈https://www2.klett.de/sixcms/media.php/229/676600_MittelpunktB2_Zusatzm_EB.pdf〉

・Ei!「まあー」／「喜びの驚き」(「君に会えて嬉しい」)
・Eiei(eieiei)!!!! 「おや！あれっ！よしよし！」／「よしよし（いい子だ）と言う。」
・Eijeijei!「あらら」／「今きみは問題をかかえてるね。」
・Eben!「まさに」／「まさしく私もそう思う。」
・Gütiger Himmel!「ちぇ！おやまあ！まさか！」／「そんな事あるはずがない。」
・Ganz genau!「全くそのとおり！」／（確認）
・Genau!「そのとおり！」／（確認）
・Ha!「はあ！ふん！へえ！」／「みたぞ！」
・Ha ha!「ふん（ばかばかしい）！」／「そんなこと可笑しいと思うだろうけど。」
・Hä?「えっ，なんだって？」／　俗語：（たいてい失礼だと感じる。Wie　bitte?「すみません，（なんでしょう？）もう一度言ってくれますか？」の代用。）
・He!「やあ！」／「やあ，そこのあなた（君)」
・Hm?「うん？」／「全く知らないな。」(「それは実に変だ」)
・Hoppla!「おっと！ほら！」／「いったい何事だったの？」
・Huch!「うわっ！」(ちょっとした驚き)
・Hui!「ヒューッ（風などの速い動きを表して／認知する感嘆表現。「風が吹く」に対応する擬音語)
・Hurra「万歳」
・Ich bitte Sie!「まさか！とんでもない！冗談じゃない！」／「君そんなことできる訳ないだろ。」
・Igitt「やだやだ、気味悪い」
・Mann o Mann!「なんてこった！」
・Mhm!「うん！」／「はい！」(同意)
・Mmmh!「うーん！」(食事に関して：「いやこれはとても美味しい」あるいは、肯定的に，ほかの事物を賞賛して)
・Na?「どうかな？」／「調子はどうかな？？？どうしたの？？？」
・Na ja!「まあ、そうかな。」「君の言うこと信じていいかどうか？」—「そんなことは。」
・Nun?「さあ。」「これについて君の考えは？」
・Oh!「あー！」(驚嘆、承認)
・Oh je!「おやまあ。」「どうなるやら。」
・Oh Gott, oh Gott!「まさか。そんな事あっていいはずがない。」
・O lala!「あらあら！」(驚きの叫び)
・Pfui!「こらっ！」「そんなことはしないものだ。」(不快、嫌悪、軽蔑、非難など)
・Pst!「しっ！」「お願い静かにして！」
・So?「そうかい？」「本当にそうなの？」
・So!「さあ開始。」

・So, so!「それはつまりそういうこと。」
・Tja!「ふん、しようがない！」「君がそう言うなら。」
・Tatsächlich?「本当なの？」（事実？）
・Verdammt!「いまいましい！ちくしょう！」（自分や他人の事に対する怒り）
・Was?「なに？」「えっ？」（驚愕）
・Wie bitte?「なんですって？」「そんなことありうるの？」
・Wirklich?「本当に？」「そんなこと可能なの？」（現実？）
・Um Himmels willen!「めっそうもない！」「まさかそんなことあってよいはずがない。」

（出典）„Mmmh…! Mittelpunkt!“, S.16f.にもとづき作成。一部加筆している。

Ⅳ　教材の中に出てくる間投詞に関する出題例

最後に、中級のドイツ語教材のなかから間投詞に関わる出題例を紹介してみたい[9]。なお、本稿では、解答もあわせて記入した。

この教材では、設問とあわせて、間投詞について、以下のような説明文がある。

間投詞は感情を表現したり、音声を模倣するのである。間投詞は、≪擬音語≫として非常に頻繁に使われる。こうした間投詞は、たいていはコンマで、あるいは（とくに強調されて）感嘆符で文が区切られる。

「メリメリ、橋が壊れる－ああ！　そんなこと想定もしてなかった。」（Kracks, die Brücke bricht! - Oh! Das hätte ich nicht erwartet.）

しかし特段の強勢を置かないと、「おお、すばらしい、深い沈黙。」（O wunderbares, tiefes Schweigen.）

また、次のようにも注意が促されている。

論文では、くだけた言葉（ミッキー・マウスの言葉）を避けるため、**間投詞の使用はごく限られた場合にとどめた方が良い**。

Hm（ふむ）には、多面的な意味がある
・発音がしり上がりなら不信感を表す：Hm? ふむ？
・しり下がりに発音すれば同感や遺憾の気持ちを表す：Hm! ふむ！
・続けて２度言えば同意しないという意味を表す：Hm, hm, ich weiß nicht...ふむ、ふむ、わからない・・・

9　Die Interjektion ― Das Ausrufewort www.mittelschulvorbereitung.ch Gr10 [https://www.mittelschulvorbereitung.ch/contentLD/DE/Gr10Interjektion.pdf]。以下引用はすべてこの資料による。

・当惑を表現する例は：Hm, tja..., Mann braucht es, wenn einem grad keine Ausrede einfällt ふむ、そうだな、／このような間投詞が必要になるのは、まさに何の口実も思い浮かばないときである：Kommst du mit ins Konzert? ― Hm... コンサートに一緒にくる？―ふむ…

問題１：下線部に適当な間投詞を記入しなさい（訳註、下線部に解答も記入した）。

（例）...Kracks(メリメリ)..., die Brücke bricht!（橋が壊れた！）

(1) ...Nanu（なにっ）...,was will er denn?（いったい彼は何のつもり？）

(2) ...Oh（あー）...,wie mich das freut!（それはどんなに嬉しいことか！）

(3) ... Igitt（やだやだ）..! Die sind ja faul!（奴らは実に怠惰だ！）

(4) ...Hurra（万歳）...! Die Ferien haben begonnen.（長期休暇が始まった。）

（例）SCHMERZ 痛い：au / autsch（痛い）

(1) KÄLTE 寒い : Brr !（ブルブル！）

(2) FREUDE 嬉しい : Oh !（わあーい）

(3) EKEL 嫌だ : Igitt !（やだやだ！）

(4) STAUNEN 驚き : Boah !（えーえ！）

(5) ZWEIFEL 懐疑 : Ach !?（えっ!?）

問題２：次の間投詞は、以下のどの場合に使用されるのか、下線部に記入しなさい（訳註、下線部に解答を記入した）。

ritze, ratze／schnipp, schnapp／ritsch, ratsch／wumms／rums／ticktack／tatü, tatü／ hui／bauz／husch／plumps／bum, bum／trara

（例）時計のチクタク（Ticken der Uhr）：ticktack（チクタク）

(1) Explodieren（爆発）: wumms／rums（ボン）

(2) Schlagen der Pauke（太鼓をたたく）: bum, bum（ドン、ドン）

(3) Geschwindigkeit（速度）: hui／husch（サッサ）

(4) Blasen der Trompete（トランペットを吹く）: trara（プー）

(5) Fallen（落下）: bauz／plumps（ドシン／ドサッ）

(6) Feuerwehr（消防車）: tatü, tatü（ウー、ウー）

(7) Zerreißen（引き裂く）: ritsch, ratsch（メリ、メリ）

(8) Sägen（のこぎりでひく）: ritze, ratze（ギーコ、ギーコ）

(9) Schneiden（切る）: schnipp, schnapp（チョキ、チョキ）

問題３：次の間投詞は、以下のカテゴリーで分類するとどこに属するか？（同じ言葉が複数の

カテゴリーに属することも可能である）（訳註、ここでは解答を記入した）。

ach ああ／Mist なんってこった／aha ははあ／au あっ（痛み）／äh えー／nanu なにっ／hallo やあ、おーい／tschüss じゃあね／bäh やあい／ächz,うー・ギイギイ／tja いやもう／pfui ちぇっ・こらっ／putt-putt トト・ココ（鶏の鳴き声）／sch-sch-sch しっ、しっ、しっ／piep-piep ピヨ、ピヨ／grins にやっ／peng パーン／boing ボーン／rums ガチャン／blub-blub ブクブク／schnipp ピチッ・パチッ／heda おーい（古い形、hallo）／verdammt ちくしょう・いまいましい／cool すばらしい／pst しっ／hatschi ハックション／hm ふむ・ふん／igitt やだやだ、気味わるい／stöhn うー（呻めき）／tja さあて（躊躇、諦め）／hoppla おっと／ja そう・まさか／nee いや／okay 了解／quieeetsch キーキー・きゃあ／prost 乾杯／hopp さあ（急げ）／genau そのとおり／nee いや（違う）／richtig そのとおり・承知した／eh おい・それなら・ええっ／naja まあそれでいいよ／gähn あーはっ（あくび）／Mensch おい・へぇっ／komm さあー／Donnerwetter これは驚き／geh さあ（疑念・催促・拒否など）

カテゴリー	例
（1）感嘆詞としての間投詞（Empfindungswörter）	au ／ nanu ／ bäh ／ pfui ／ hoppla ／ verdammt／cool
（2）要求・命令と挨拶言葉（Aufforderungs- und Grußwörter）	tschüss ／ hallo ／ heda ／ pst ／ prost ／ hopp／komm／geh
（3）呼びかけ・追い払いの言葉（Lock- und Scheuchwörter）	putt-putt／sch-sch-sch／geh
（4）擬音語・擬声語（Lautnachahmung）	boing／peng／rums／blub-blu／schripp／hatschi／quieeetsch
（5）対話で使用する言葉（同意、躊躇・引き延ばしや当惑の心態詞）（Gesprächswörter), (Bejahungs-, Verzögerungs- und Verlegenheitspartikel)	äh／aha／tja／hm／ja／nee／okay／genau／richtig／eh
（6）派生語から（Aus Wörtern anderer Wortarten）	Mist／Mensch／Donnerwetter
（7）語形変化する派生語（本来は擬音・擬態を表す動詞で、語尾の-n や-en を省略した形）(Ursprünglich Verben für Geräusche oder Mimik, bei denen die Endung weggelassen wurde)	Ächz ／ grins ／ stöhn ／ piep - piep ／ bremsss／seufz／gähn

おわりに

以上、間投詞についてドイツで出版され、日本でも使用されてきた教材などの扱われ方、問題例などを大まかではあるが概説してみた。以下筆者が日ごろ日本のドイツ語教育の現場で痛感している課題を箇条書にして若干のまとめとしたい。

1．間投詞は、状況や発音、抑揚、発話者の語感などの要素によって、多義に亘る。ドイツの言語環境との差異を擦り合わせながら、間投詞の意味を正確に理解することは、実はそれほど容易いことではない。多くの間投詞について、母語話者の教員による分かり易い説明があっても、必ずしも正確に授業の中でその理解が十分に浸透すると言い切れない。日本語を母語とする学習者に対しては、日本人の教員自身の努力が必須であることは当然である。現代においてはインターネットの普及に伴い、学習者自身が自力で言語学習が容易になっている。しかし、個々に習得した言語感覚や知識を尊重しながら、学習者全体のレベルアップにつなげるには、個々のバラツキを授業内でまとめておく必要もあるように思われる。

2．日本で出版されているドイツ語教材は、総合教材であっても、間投詞をまとめて扱っているものは少ないようである。しかし例えば、学習参考書のひとつ、清野智昭著『中級ドイツ語のしくみ』はたいへん参考になる。清野氏は「間投詞と擬音語」のなかで次のように言っている「間投詞というのは、・・・ほとんど無意識に発するものですから、ネィティブでない限り使いこなすのは困難ですし、勉強する必要も特にあるとは思えません。しかし、使えなくても、どんな間投詞がドイツ語にあるか知っておくのは有益ですし、楽しいです。」[10] という軽妙な語り口とスタンスで間投詞を扱っている。同書では、この他にコラムとしてドイツの動物の鳴き声や慣用表現が興味深く説明されている。実際には音や表情も伴う間投詞の使用にあっては、DVD などの日本の教材の中でも大まかにまとめられることが、現場の教員にとっても望まれることである。

3．間投詞に限ったことではないが、外国語学習において母語との差異を擦り合わせながら、日本語の翻訳も重要な項目である。もちろん、外国語を母語に置き換えたからといって、文脈を正確に理解したとは、必ずしも言えない。ことに間投詞は論文などには通常あまり使用しないので、大学におけるドイツ語教育において、間投詞の訳語にこだわる必要性を感じない向きが多い。このような状況下、「されど間投詞」の理解が、もう少し授業に浸透するには、翻訳の作業についても検討する必要があるように思われる。

4．インターネットの普及、動画サイトによる学習効果も見込まれ、それらが個々別々に進んでいる中で、メディアリテラシーとの関わり、教員養成という観点から様々な企画が、大学や言語教育機関で提供されている。今後、現職教育および教員養成企画に、個人がどのように参画し、現場の授業にそれを反映させ、効果が上がるかは、関係機関、関係者自身の課題となろう。筆者も未だそのひとりであることを痛感するものである。

（本学教授＝ドイツ語担当）

※インターネット情報は、いずれも2019年９月１日現在である。

10　注１を参照。

【参考文献】注に記したものを除く。

- Zeitschrift für Semiotik, hrsg. von Roland Posner in Verbindung mit Martin Krampen und Dagmar Schmauks, Interjektionen Bd.26, Heft 1-2, 2004 hrsg. von Sabine und Daniel C. O'Connell, Stauffenburg Verlag
- Martin Reisig: Sekundäre Interjektionen. 1999, Frankfurt (Main), Peter Lang
- Steven Schoonjans: Modalpartikeln als multimodale Konstruktionen, -Eine korpusbasierte Kookkurrenzanalyse von Modalpartiken und Gestik im Deutschen. Empirische Linguistik / Empirical Linguistics. hrsg. von Wolfgang Imo und Constanze Spieß. Bd.8, 2018, Walter de Gruyter
- Ellen Fricke: Grammatik multimodal: Wie Wörter und Gesten zusammenwirken. 2012, Berlin, Walter de Gruyter
- Konrad Ehlich: Interjektionen. 1986, Tübingen. Max Niemeyer Verlag
- Eva-Maria Willkop, Claudia Wiemer, Evelyn Müller-Küppers, Dietrich Eggers, Inge Zöllner: Auf neuen Wegen ― Deutsch als Fremdsprache für die Mittelstufe und Oberstufe. 2012, Ismaning, Hueber Verlag
- Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Bovermann, Monika Reimann: Deutsch als Fremdsprache, Schritte international 1. 2013, Ismaning

【参考】Hueber 社の教材から「間投詞」

※顔の表情から、それぞれの間投詞の意味するところがイメージできる。

（出典）Schritte international 1, Max Hueber Verlag, 〈https://www.hueber.de/schritte-international/interjektionen〉